



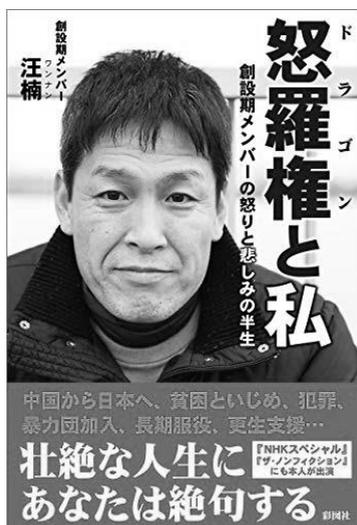
第22号 2021・5月

ほんにかえるプロジェクト発行

編集責任者：汪 楠

2016年1月創刊

発起人・汪楠特集号



ほんにかえるプロジェクトは2015年9月30日に設立され、おかげさまで6年目になります。そしてわたし汪楠も出所して7年目になりました。ここまでやってこられたのは支援者を始め、皆様のご理解とご協力があったので、心から感謝を申し上げます。

ほんにかえるプロジェクトは受刑者の更生を支援する団体です。そして当初から発起人である汪楠を更生させる対象の第1号としていました。いろいろとありましたが、逮捕されることなく、7年間も社会にいることは個人的にも初めてのことで、感無量です。

さてそんな私ですが、このたび本を出版しました。彩図社から「怒羅権と私」というタイトルで出しました。ネットの書き込みを見る限りでは賛否両論のようで、一部から批判されているのも事実です。今回はかえるのうたの紙面を借り、世間で知られている汪楠の姿を会員の皆様にも公開したいと思います。

すでに「我的童年」というタイトルで私の生い立ちを書いた手記というか、小冊子をスタッフと手製し、一冊500円で販売しています。お買い上げになった会員もいらっしゃるのご存じと思いますが、「怒羅権と私」の前半はその獄中に書いた手記を基にしています。もちろん在監中は更生も考えていなかったし、出版も当然考えていませんでした。それでも13年の実刑を務めるにあたり、自分でも何らかの変化をするのであろうと考え、その記録を残す意味で自分の過去を書き始めました。そして全国紙から取材を受け、犯あらしも連載を依頼され、罪の手口を記事にして書いているうちに市民団体から連載を依頼され、6年間の連載で見知らぬ方からも支援を受けるようになりました。その支援者にあてた手紙も有志によりパソコンで入力され、出所と同時に約40万字の自分の手記が出来上がっていました。

生い立ちを書くことによって自分の過去に向き合うことができ、支援者との文通で社会と接点ができ、出所後も孤立することはありませんでした。これが原体験としてほんにかえるプロジェクトを設立する動機の一つにもなりました。

ここからは本を紹介し、この原体験を共有出来たら幸いです。

目次

はじめに

第1章 医者の子から犯罪者の子に

インテリ一族に生まれて
私が育った環境
小学生時代
文化大革命の影響
父の思い出
文化大革命の抗争に巻き込まれる
医者の子から犯罪者の子に
ガキ大将のなり方

第2章 怒羅権誕生

日本へ
壮絶な差別
家出と仲間との出会い
いじめと怒羅権の誕生
最初期の怒羅権には
名前がなかった
変わり始める怒羅権
初めて人を刺した日
空腹と暴力
包丁軍団と呼ばれた理由
怒羅権に与する者と与しない者

第3章 荒れ狂う怒羅権

ターニングポイント
怒羅権伝説の誕生
拡大する怒羅権
ヤクザと怒羅権の関係

ヤクザの腕を日本刀で切り落とす
少年院 現実が見えていない大人達

出所、再びヤクザに

組織としての怒羅権

怒羅権のシノギ

ピッキング名人

風俗経営

蛇頭との関わり

犯罪の心得

部下の福利厚生

逮捕された日

第4章 自らの罪と向き合う

石井弁護士との再会

私の中にも阿Qはいます

警察の知られざる顔

予想外の求刑と判決

なぜいじめは生まれるのか

刑務所の生態系

ペニスに玉を入れる者たち

刑務官とヤクザの癒着

中国人として服役するという事

出所に怯える受刑者たち

支援者との絆

反省について犯罪者が思うこと

刑務所の中から見た怒羅権

時代を越えて

第5章 出所後の道

名古屋入管への移送
まっとうになりたい
犯罪者の更生支援
怒羅権をどのように
変化させるべきか
日本への怒りは今
おわりに

目次はこんな感じです。もともとは本を出すにあたり、一冊目は中国残留孤児の話から始め、もと朝日新聞の記者に政治的なものを含めて真面目に書いてもらう戦略でした。これを名刺代わりに使えるといわれていました。そして2冊目は皆様におなじみの実話ナックルズのタッチで武勇伝的なものを書く予定でした。それがコロナなどの諸事情で予定がずれ、1冊目の編集が遅れ、二冊目の作業がどんどん進んでしまった。さらにチャラク書く予定の彩図社の編集長草下シンヤさんはワンさんの話をチャライタッチで描くのはもったいないような話になり、構成の神里純平さんと進めていた作業に執筆協力として小神野真弘さんも参加されることになりました。事実上の編集スタッフの増員である。そして出来上がったのはこの本である。

◆ 以下は Amazon からの引用

著者について

1972 年中国吉林省長春市生まれ。

| 4

エリート家系に生まれるも文化大革命の影響を受け、少年時代に犯罪集団の襲撃を受けるなどして育つ。

14 歳の誕生日に日本に渡り、以後、日本での生活を送ることになる。通学する葛西中学校には多くの中国残留孤児 2 世がいたが、どの家庭も貧困や差別に苦しんでおり、いじめに遭う者も多かった。

残留孤児 2 世に対する激しいいじめに抵抗するために、自然発生的に集団化していったのが怒羅権だった。汪楠は創設期の怒羅権のメンバーである。後に、暴力団に属し、さまざまな犯罪行為を行うが、2000 年に詐欺罪などによって逮捕。13 年の実刑判決を受け、岐阜刑務所で服役生活を送る。

2014 年に出所。犯罪の世界には戻らないことを心に決めて、2015 年には全国の受刑者に希望の本を差し入れる「ほんにかえるプロジェクト」を立ち上げる。現在も自分が犯した罪や怒羅権と社会の在り方などに向き合いながら活動を続けている。

◆ 以下は Amazon のレビュー ☆が高評価

レビュー① ☆

まず初めに、この本のネタには善良な一般人や法人の被害者も含まれているようです。Kindle のロイヤリティや出版本の印税の扱いがはっきりするまで買うべきではないと思います。

実際本は買ってませんが、Yahoo トップニュース経由で文春オンラインの記事 13 ページ全て読みました。最低な物(人扱いしたくないので者と表現しません)ですね。

ヤクザ相手の暴力や強盗はどーでもいいですが、この物に脅された鍵屋さんなどは一生もののトラウマを植え付けられたでしょうし、一般企業に対する窃盗など、きちんと本人達に向かっただけの謝罪および弁済をし許しをいただいたのでしょうか？

この本の印税やロイヤリティをこの物が受け取らないことが明記されていれば購入することも問題ないと思いますが、「自身の犯罪経験」という「一般人が真っ当に生きてきて、どんなに工夫や努力をしても得ることのできないネタ」で利益を享受させるのは社会通念上間違っていると思います。

レビュー② ☆

不当な扱いを受けたから犯罪に至るようなことを美談、あるいは正当化するような内容でした
ただただ不愉快

レビュー③ ☆☆☆

「半生」であって「反省」ではない Amazon で購入

父親の事情で中国から日本へ騙されるように移住したものの、飢えと孤独からやがて中国残留孤児 2 世・3 世を集めて「怒羅権」を結成した中国人の方の自伝です。

まず前半のいかにして犯罪と暴力に染まっていき最終的に 28 歳で逮捕されるまでの経緯は(不謹慎ながら)非常に面白かったのですが、収監されて刑務所に入ってから消化試合モード、あとは日本批判です。13 年も刑務所にいたら浦島太郎だと思うのですが、娑婆に出た後の社会復帰も描写は乏しいです。

また「書けない話」も沢山あったと思うと非常に惜しいです。今は足を洗って実名で活動してる以上は全てを明かせなかったのではないのでしょうか。

さて、タイトルが「私の怒りと悲しみの半生」である事からも伺えますが、

著者のスタンスとして「自分は加害者というよりは被害者で、子供時代の悲惨な経験からこうなった」というのがあります。申し訳程度に謝罪や後悔の言葉は出てくるけれど、全体的にはその裏に隠れた自己正当化が読み取れてしまいました。

置かれた境遇に同情はしますし日本を嫌いになるのも当然ですが、「日本に連れてきた親父が悪い」「日本で虐められてこうなった」「中国人だから差別されてる」と全てを責任転嫁するような姿勢には眉を顰めてしまいます。確かに虐めや差別は決して許されませんが、ここまでの犯罪者になったのは、作者の跳ね返りもやや強すぎたように思います。

また自己評価の高さに鼻につきます。実際にピッキングや組織マネージメントなど特定の分野での才能がある人だったと思うのですが、モノホンのヤクザにマウントを取ったり、少年院の教官を自分の方が女性経験人数や動かしただけのお金が多いなどの理由で侮蔑して話を聞かないところはいかにもです。

少なくとも 10 億円以上の窃盗や強盗をするのに「被害者には保険金が下りるから…」みたいな感じで捉えたり、「反省という言葉は安易に使わない」

と言って実際に大して反省してるように見えなかったりと、なんかすごい人です。母親が銃で人の顔面を弾いても不問になったのを眼前で見ていた人だからでしょうか。

この著者に関しては、とにかく思考回路から行動原理に至るまで色々なレベルで一般的な日本人とはかけ離れており、文化や倫理観の異なる日本に強制的に連れてこられたことが不幸の始まりであったのは間違いないところだと思います。

今は組織からは身を置いて活動されているようですが、残り半分の人生はどうか安寧たる物になるように祈ります。

レビュー④ ☆☆☆☆☆

面白い。オススメです。

面白くて、一気に読んでしまいました。

イジメに遭っている同胞を助けるために自衛を目的として立ち上がった者達によって発祥したという動機は善。自衛による喧嘩や仕返しを繰り返すうちに、彼らは強くなっていった。ただ、“力”を得た時に、その力をどう使うかで社会の中で善悪の評価が下される。

得た力で人に迷惑の掛かる金の稼ぎ方（犯罪）を行い、いつしか犯罪で金を得る事が目的の集団になってしまった事が残念です。

“強さ＝弱い人や困っている人達を助けるための強さ”であってほしい。彼らが置かれていた強い逆境の中では、キレイ事だけではやっていけなかった部分があったとは思いますが、行動力も頭の良さも持ち併せている人達なのだから、被害者を出さない方法で活躍して頂きたいと願います。

レビュー⑤ ☆☆☆☆☆

ただの犯罪自慢ではなく、半生から得られた知見が書かれている

まず、著者は自らが犯した罪に対してこれ以上無いくらい真摯に向き合っていると感じましたし、犯罪自慢をしているわけではありません。

文春オンラインに著者が犯した犯罪の内容として本書の一部が抜粋されて出ていますが、恐らく記事にインパクトを出すためであり、本書の内容の要点はそこではありません。

差別やいじめ、人間の根源的な欲求、怒羅権が結成された経緯、服役中に感じた不条理、自らが犯した罪に対する向き合い方と後悔、個人ではどう

することもできない歴史や生き立ちなど、様々なことに対して著者の人生を通して導き出された考え、問題提起が書かれています。

著者は良くも悪くも普通の人間が経験することは無いような経験をたくさんされていますが、どんな人間も悪であろうとしているわけではなく、それぞれの正義感を持ってただ必死に生きようともがいているだけであることが分かります。

これからさらにグローバル化や多様化、そして人の孤立化が進み、日本にも移民など多様な生き立ち、思想を持った人が多くなることを考えると是非読んでおきたい1冊だと思います。

レビュー⑥ ☆

首を切り落そうとして骨にまで刃が達したのが、たった16年の実刑だけだったのが解らない

首を切り落そうとして骨にまで刃が達したのが、殺人罪（殺人未遂？）にならないのが、解らない

それで、たった16年の実刑だけだったのが、解らない

すみません、本は読んでない。本を紹介する記事を幾つか読んだだけで、す、

レビュー⑦ ☆☆☆☆☆

異分子に対する日本社会の不条理さ

何年前かに放送されたザ・ノンフィクションに出てた人の本ですね。その番組自体が衝撃的で、印象に残っていたのでこちらにも購入してみました。

一読した感想は、本の帯に書いてあるとおり「絶句」です。

中国残留孤児の引揚げ政策で日本で暮らすことになった著者ですが、転入先の中学校で差別にあったり、暴力に直面したりして、同じ境遇の中国残留孤児たちと怒羅権という暴走族をつくっていきます。その暴走族はヤクザと癒着するようになってギャングに変貌し、凶悪犯罪を繰り返すようになります。

著者はかなり詳細に当時の中国残留孤児たちが受けた差別や暴力、自分たちが行った犯罪などについて書いているのですが、その書き方はまるで調書みたいに淡々としていて、これが独自の読み味を生んでいる。だってそんな淡々とした書き方なのに内容は「首を切り落とそうとしたけど、首の骨が意外に固くて落とせなかった」とか「敵対する暴走族を鎮圧したあと、土下座させ、あばら骨を一本ずつ折って、橋から川に落としたり」とかめっちゃくち

や。この文体と内容のギャップに生々しいリアリティがあって実に読ませます。

ただ、肝心なのはそうした犯罪自慢、不幸自慢が主題ではないということです。この本の主題は、異分子に対する日本社会の不条理さ。

怒羅権は、差別や同調圧力によって日本に居場所がない孤児たちが生きるためにつくった組織なのだと著者はいいます。

日本社会が彼らにした仕打ち、彼らが犯罪に走るようになった経緯、逮捕されてからの支援者との交流で気付いた絆の力、犯した罪を償うというのはどういうことなのか、といったことについて非常に冷徹に考察していて、これは現在社会問題になっている在日外国人の犯罪者化について考えるためのヒントや気づきを与えてくれるように思います。つまり、2021年の現在にこそ読まれるべき本だなと。

正直なところ、日本という社会に生きていて「寛容さ」のようなスローガンに若干の空虚さを感じていたのですが、なぜ自分がそのように感じるのか、その手がかりが得られた気がしました。良書です。

レビュー⑧ ☆☆☆

星一つにしてこきおろしているみなさんへ

アマゾンさんで購読してから酷評しましょう(笑)

システム上購入しなくても酷評できますが、フツーに考えればわかると思うんですけど(笑)

だいたい、読んでもいないのにどうやって評価すんですか(笑)

営業妨害も甚だしい(笑)

本題ですが、この本を読んでやはり感じたのは、我々日本人にも責任があるということ。

規律正しく足並みを揃えるところが日本の良いところであり、世界に誇れるところですが、裏を返せば村社会であり、少数者は即、村八分にされるということです。中学校や刑務所などの狭い社会ではなおさら。

この国の根底にある村社会、村八分意識が怒羅権というモンスターを産んだのだと思いました。

そして、著者は意図していないかもしれませんが、この本の核心は、このような意識のままでは世界の潮流から取り残されてしまうという、警告なのだと感じました。

星ふたつマイナスにしたのは、ひと

つは、自身の罪を環境のせいにしていう印象が拭えなかったところ。外的要因はたしかにあります。結局は本人の資質と言わざるを得ません。その資質を強く感じた場面がいくつかありました。

しかし反面、後半になると、著者も血の通った聡明で誠実な人物であることがよくわかります。自身の罪に対しても、とことん考え、とことん向かい合っているのがわかります。

もうひとつのマイナスは、現在も怒羅権と交流があるということ。それでどうなのかな..とと思いました。

以上のふたつから、読み終えたときの気持ちとしては、なんかモヤモヤが残りました。

著者の更生を信じます。再犯は、この本を購入した読者への裏切りでもあります。

汪楠氏の人生はこれから。彼の活動を温かい目で見守り、応援してあげましょう。

追記

まあ、でも、考えてみると、あの文春オンラインの記事も一種の炎上商法ですからね。

叩かれるのは当然なわけで。

私も、あのセンセーショナルな見出し

を見なければこの人物に興味も沸かなかったですし、この本を購入してみようとも思わなかったです。

おかげで「こんな世界があったのか。」と知識が増えました(笑)
それと、汪楠氏に対しては、アンチと信者に分かれそうですねえ。そんな気がします。

レビュー⑨ ☆☆☆☆☆

強烈な語句のパラダイス

刑務所での裏側や、そこで起こった差別など考えられるものが多く深かったです。

強烈なワードの数々からあつという間に読み終わってしまいました。

レビュー⑩ ☆☆

「被害者と私」

どんなに奇麗ごとを言っても、言い訳でしかない。大人の社会を甘く見ないでほしい。差別を受け、虐待されたなら

その当事者だけをくやれば>良い。それ以上の犯罪行為を無関係な人たちに向けたのだから、そうしたことの理由を語るより<謝罪>だろう。著者が友人と談笑している時、旨い料理を食べている時も、被害者は当時のことを思

い出し<途方に暮れ><怒り><苦しんでいる>かもしれないことを思うなら、誰に入れ知恵されたか知らないが二度とこのような真似はしないでほしい。最もこのような批判も<想定内>かもしれないが、。<一生償わなきゃいけないのか>と反論されそうだが、<誘惑に負けてこの手の本>を出した段階で、その反論も聞きたくない。この手の言い訳は<閻魔大王>の前で語ってほしい。

レビュー⑪ ☆☆☆☆☆

安易な犯罪自慢では無い

最後まで読めば、著者の今もなお抱える苦悩がダイレクトに伝わります
イジメ、差別、犯罪…様々な事柄における「加害者」と「被害者」

そのどちらの立場の人にも読んでもらいたい内容です

レビュー⑫ ☆

読む必要はない

インターネットで手に入る客観的な情報と違いはありません。

ただ当事者がどのように感じ、どのように至ったかが記録されているにすぎません。

事実を知りたいのであれば、自身で

努力して情報を集めましょう。

当事者の主観的な感情を知りたいのであれば、この本を購入すればいいかと思えます。

私が本に求めるものは娯楽ではなく、知識です。彼らの生き方から学ぶものは無く、活かす内容もありません。

レビュー⑬ ☆

日本から出ていけ

鍵屋さんに何の落ち度があるのか？
かたぎの人間を苦しめた時点で
こいつはダメ。
日本から出ていけ！

レビュー⑭ ☆☆☆☆☆

刑務所内部の人間関係が興味深い

在日中国人が作った半グレ集団「怒羅権」の創設メンバーの半生を記した本。著者は数々の犯罪を犯していて、著者から精神的肉体的に苦痛を与えられた人は多いだろう。いくら刑期を終えたとはいえ、それを正当化することはできないのは当然である。

ただ、読み物としてはとても面白い。どうやって狙った企業の金庫を開ける方法なども興味深かった。私が一番、興味を持ったのは、刑務所

の中のことだ。刑務所の中にはヒエラルキーがあり、ヤクザが頂点に立つ。

ここまではなんとなくわかっていて、ここに看守たちも組み込まれているというのだが、どう組み込まれているのかが、具体的に書かれているのだ。

こういうことは今までなかったのではないか。

TBSの報道特集などが刑務所の中を取材することがあるが、刑務所の許可を得て取材するから、看守自体を批判することは難しいだろう。実際、その部分に迫ったドキュメンタリーなどは見たことがない。
貴重な証言だとおもう。

レビュー⑮ ☆☆☆☆☆

生きる意味

読み終わり複雑な気持ちになったし、知らなかった世界を知り、色んな思いはあるが、この本に書かれている事を軽々しくあれこれ言えないと思った。

物事には色んな角度から見なければ見えて来ない事があるし、誰しも正しい事を常に考えて行動してるわけではないし、それぞれの生い立ちや立場、国の歴史や文化などがある事を教えら

れた。

結局人は何を過去にしようと今を生きなればいけないし、自分と対話し学び自分の選択で自分にできる事をし前に進むしかないんだと思った。

レビュー⑯ ☆

最悪

懲役太郎と同じ系譜

自分の悪行をネタにしてゼニ稼ぎ被害にあった人間に賠償する気も無い

レビュー⑰ ☆

49歳の少年へ

親からの愛情に恵まれず、また日本人社会でいじめに遭い、心に傷を負って犯罪に走った少年の話。既に49歳だが、過去自分にやったことを全く反省も後悔もしていない。ということは、また犯罪を犯す可能性が大だ。

それでも、著者は数年前にやっと自分の父親に対する怒りに気づいたとのこと。これは大きな進歩だ。

人は心に憎悪、特に親に対する憎悪を持つと、良心が麻痺し、平気で犯罪を犯してしまう。これを癒すには、まずその憎悪を吐き出すことが肝心だ。

カウンセリングを受けるもよし、筆記療法でノートに父親に対する不満を

ぶちまけるもよし。

そして、憎悪が解消すると、良心が回復し、過去に犯した自分の罪を心から後悔し、反省できるようになる。そうしないと、心は永遠に傷を負った少年のままであり、死ぬまで犯罪を繰り返すことになる（今や刑務所は高齢の犯罪者で溢れた老人ホームだ）。

どちらを選ぶかは、あなた次第だよ、汪さん！

レビュー⑱ ☆☆☆☆

一気に読めるほど面白い

作者はかなり頭がよく、世の中の分析についても的を射ている。風貌も悪人面しておらず、そんな人間には見えない。

差別を自覚する事が無ければ、一角の人間にもっと早くなっていたと思う。

違う道に進む後輩を憂いているが、失礼を承知で言えば、作者が現役の頃の方が過激だったし悪さも多くしていた。今は横の繋がりも薄くなって、金で揉める組織になり、マフィア化している。更生するメンバーが、一人でも多くなれば良いと思うし、作者もそれを望んでいる。

レビュー⑱ ☆

「日本」の惨憺たる現状
併せて読むなら下記がオススメ

●通訳捜査官—中国人犯罪者との闘い
2920日 坂東 忠信 (著)

●在日特権と犯罪 坂東 忠信 (著)
この様な凶悪外国人が平然とで犯罪を告白し、息のかかった連中が政治家になって中枢に入り込んでいるのがこの国「日本」の惨憺たる現状
「福岡一家惨殺事件」「埼玉熊谷の6人惨殺事件」etc.外国人の犯罪は挙げたら切りがない。そして、極めはコロナ蔓延。もはや自民党では「日本」崩壊の秒読みは止められない！

レビュー⑳ ☆☆☆☆☆

壮絶な人生垣間見…面白い本！1日で読み切ってしまいました。80年代、中国残留孤児ってメディアで取り上げられていたのは覚えてましたが、葛西近辺の片隅で沢山の若い中国人の子達がいじめにあい、辛い思いをしたのは知りませんでした。そこからの結末、犯罪グループへと変化してくさま、自然な流れとしか思えない展開でした。長き刑期を経て、自ら含めの更生支援をする汪さんのこれからと、彼の文才…次回作に期待したいです！

レビュー㉑ ☆☆☆☆☆

いい本です

レビュー㉒ ☆

加害者の戯言
1000悪いことしても1普通のことしたら
善人面出来て受け入れてもらえるんだからなあ
本当に犯罪者には楽な社会だ
腕を切られたヤクザの報復が待ち遠しいよ

レビュー㉓ ☆☆☆☆☆

リアルな現実には衝撃
日本人はこの真実を知るべきだと感じます。

レビュー㉔ ☆☆☆☆☆

やる事が半端ない
チャイニーズ怒羅権は質が悪いと聞いていたが…同情するところも多々ありました。
現在は真面目にされてるので頑張っ
てほしいと思います。

レビュー㉕ ☆☆☆☆☆

内容は重いが、考えさせられる良書
淡々とした文章ですごく読みやすい

ですが、書いてある内容は壮絶で強烈です。

戦争を起因として、差別や貧困がここまでの犯罪と苦しみを生むのかと思うと胸が締め付けられます。本人が「反省」という言葉は簡単には使えない、罪は清算できるものではなく、一生向き合っていかなければならないと本書に書いてます。この言葉の意味は、とてつもなく重いものを背負ってこれからの人生を過ごしていくのだからなと感じました。

レビュー②⑥ ☆☆☆☆

もう1つの「大地の子」の物語

1980年代以降、中国をルーツに持つ『怒羅権』が暴れてまわった。当時は暴走族等が乱立し喧嘩に明け暮れた時代だ。

『怒羅権』はそのルーツ故に外国人はこわい、外国人は治安を悪化させる等の偏見を持って語られて来た。この偏見は今でも生きている。

『怒羅権』が生まれた経緯は本書を読んで欲しいのだが、日中戦争、敗戦、文化大革命、田中角栄による日中国交正常化と山崎豊子先生の「大地の子」のような壮大なストーリーがそこにはあるのである。

この本は『怒羅権』を題材としているが、外国人労働者・外国人技能実習生が大勢いる現代日本で考えさせられる事は多い。

日本語の教育支援などすぐにでもできることはあるはず。新型コロナの状況で犯罪を起こしてしまう実習生のニュースを見るたび心が痛む。

レビュー②⑦ ☆

犯罪手記

ただの犯罪手記なのでは？

レビュー②⑧ ☆☆☆☆

被害者の気持ち？んなの知るかよ

素晴らしかった。この弱肉強食の世の中を強く狡猾に生き抜くノウハウが沢山詰まってる。「被害者の気持ちを考えろ！賠償しろ！」と叫んでいる奴が居るが知ったこっちゃない。

被害者は加害者より弱いから被害に遭った。自業自得でしかないし自己責任だ。自分の能力不足を加害者に責任転嫁するなよ醜いな。全ての不利益は当人の能力不足。

騙されようが奪われようが殺されようが弱いのが悪い自己責任で片づけられる現代社会で勝ち抜く術を学べる良書。

レビュー②⑨ ☆☆☆☆☆

衝撃的だった

ただの犯罪を扱った本ではなかった。差別や貧しさと犯罪の関係性について考えさせられた。著者のワンナンさんを応援する日本社会であってほしいと思った。

レビュー③⑩ ☆☆☆☆☆

危機管理の参考に

犯罪の種類を知り、それにどう対処すべきかを考えさせられる本かと思います。

例えば路上で刃物で襲われた場合。相手の技量にもよりますが、本書にあるような得物の使い方をされると非常に危ないです。

実際に襲われた自分の友人達の話とも通じるところがありました。

他にも誘拐、詐欺、窃盗など、犯罪に対する危機管理については、実際に攻撃した側から書いているので、そこの護身術とかの本よりよほど参考になるのではないのでしょうか。

レビュー③⑪ ☆☆☆☆☆

深く考えさせられる本です。

この手の書籍にありがちな軽い感じは一切ありませんでした。

罪とはなんなのか差別とは何なのかをひたすら考えさせられる本でした。

レビュー③⑫ ☆

胸くそ悪くなる

チラッとYahoo!ニュースか何かで、一部読みましたけど、犯罪の記録的なもので胸くそ悪くなるばかりでしたね。印税がこいつの懐に入るかと思うと、胸くそ悪くなるばかり。

レビュー③⑬ ☆☆☆

半グレ資料と言うよりかはこれからの日本について考えさせられる本

作者さんは中国人系の血筋で差別を受けてきたと言ってるんですがまあ全然同情出来ないんですよ。自分達の悪行を「自分達は差別されてるからしゃーない」というスタンスで正当化し、若い頃からケンカは強いだの、ヤクザを物怖じせずには刀で切ってビビらせただの、鍵屋さんを勝手に拉致監禁して金庫破りの鍵破りの技術を身に着け警察をも唸らせた。だの反省はしている?にせよ、少なくとも犯罪や行動を武勇伝のように語ることは終始変わりません。

というか差別云々にしても別に作者は平和に暮らしていた所を日本人に襲

撃されたとかならざらざら、子供の頃から悪行の限りを尽くしており、病院で自分達を治してくれている日本人も見下す始末。

勿論彼のエピソードからわかるような日本の同調圧力、アジアの中で、二を争う裕福な国であるが故の多民族見下し、国内の少数派への無関心、思慮の無さなどは確かに辛かったろうなと同情した矢先に息をはくようにまた犯罪です。

普通に暮らしている在日中国人、二世、三世の方が肩身が狭くなりそうなくらい「中国人」だからだの「差別を受けた」というのを終始盾にして犯罪を正当化してきます

（朝鮮系ヤクザの方の本も同じような理論を使うのが面白い所です笑）今は犯罪から手を引けるように法人をやっているそうですがこれでは…

何度も犯罪を犯しているにも関わらず少年法に守られてすぐに出所し、反省せず犯罪のエキスパートになっていく

彼を見て、どうして少年法なんてあるんだろう、どうして彼は30年だの刑務所に入るべき人間なのに、こんなに呑気にシャバで暮らせているのだろうという日本司法への疑問

こんな奴がいるのに日本は移民を入れ

続けて果たして大丈夫なんだろうかとか

この本は中華系半グレがどのようになっているのかというのを調べる本というよりは日本の社会のこれからのあり方を考えさせられるような本だと思います。更に言うなら移民反対派の方に良い資料だなとも思いました

レビュー③④ ☆☆☆☆

在日の人しか共鳴出来ない描写が多い。

私も同じ在日の人ですから、作者が書いている内容は在日の人でしか共鳴出来ない描写が多い気がします。ただ、差別があったという理由で、怒羅権を立ち上げて、本で「怒羅権は今みたいな犯罪組織になると思わなかった、今は解散すべきだ」という事を作者が言っているですけど、怒羅権設立時に、お前と怒羅権を立ち上げ時のメンバーも含めて、皆犯罪行為してたじゃ無いかよ。成り行きで今みたいな犯罪団体になることは当時でも十分想像出来る筈です。

レビュー③⑤ ☆

不快

暴力を正当とする内容に吐き気を催す

レビュー③⑥ ☆☆☆☆☆

迫力がある

文章は淡々としています。ですが、やっていることが凄いので、その淡々とした感じが迫力を生んでいます。

「話を盛る」のとは逆で、実際はもっとやばいんだけど、さすがに全部は書けないので抑えてるんだな、というような印象を受けます。犯罪系のノンフィクションを好きな人なら、読んで損しないと思います。

レビュー③⑦ ☆☆☆☆☆

日本人だが共感した

自分も日本の学校に馴染めず、社会に馴染めず馬鹿にされたり無視された経験が強く共感できる点が多かった。

レビュー③⑧ ☆☆☆☆☆

少し残酷ですが、面白かった。

共感できる面もあった。ノウハウが役に立った。少し残酷な場面もあった。

レビュー③⑨ ☆☆☆☆☆

絶句

私もイジメをつい最近まで受けていました。イジメや差別は人の人生を変えてしまいます。なんの生産性もありません。心療内科にも通院しながら家

族を養っております。作者には、大器晩成で、良き人生を過ごしていただきたいですね。

レビュー④⑩ ☆☆☆☆☆

興味深い

裏情報を知り得たという点では評価は高い。しかし本来出すべき内容かはなんと。よって3。

以上がアマゾンに寄せられたレビューである。受刑中の皆様はどう思いましたか？このレビューをひたすらコピーしながら受刑中の会員はこれを読んでどう思うんだろうかと考えた。なぜなら受刑者会員は累積で約500名になりそうな勢いですが、外国人はわずか数名のみである。だから外国人として共感できる人は少ないはずですが、しかし似たような幼少期を過ごした人も多いはず。同じ日本人でもいじめや差別があり、その被害にあわれた人も実に多い。

その一方では受刑者の多くは否定されて生きてきました。唯一自慢できるのはそれでも俺は日本人であるところです。だから受刑者のほとんどは愛国者と自負している。実に興味深い現象である。

ちなみにこの本は2021年1月27日に出版しました。紙の媒体としては16000冊も売れました。Amazonの暴力団マフィアというジャンルの書籍としては第1位になり、総合的なランキングでも一時は3000位台に躍り出て、いまは少し落ち着きました。

気になる印税ですが、3%ですね。あとはご自分で計算してください。

出版にあたり、新聞の全国紙から取材を受けました。そして多方面の方から励ましのメールや電話が殺到し、暖かい言葉をいただきました。挑発してきたメッセージは一つだけありました。ご指摘を重く受け止めますと返事しても、挑発をやめないのです、どこかで会いましょうかと返したら、俺を殺すのか？また刑務所に行くよといわれた。はいはい、お前が刑務所に行くなよと返し、ついでに刑務所はお前みたいな匿名でしかものを言えない姑息な野郎が生き残れるところではないと忠告しておいた。

ネットの掲示板もスレを立てられたようで、予想通りのヤフコメで、言及する必要もないかと思います。

刑務所によっては怒羅権が準指定暴力団であることを理由に購入できても閲読を制限されるかもしれません。一方では私が出たフジテレビのザノンフィクションを教育処遇日にわざわざ視聴させた刑務所もあります。そこは刑務所ごとの判断に委ねられるところで一概に言えません。ただ作者として、そしてほんにかえるプロジェクトの発起人であり、もと受刑者としては更生の参考になれば幸いです。

先日もSNSでもと受刑者仲間からメッセージをいただきました。私が刑務官で戦っていたことを話していて、懐かしく受刑生活を思い出していました。更生とは必ずしも施設の職員や刑務官の言いなりになる必要はありません。更生は誰のためでもなく、私たち自身のためであるというのが私の持論です。

もっと言えば模範囚ほど再犯率は高いという説もあります。本当に反省するよりも反省するふりをしたほうがはるかに簡単だし、どうせ反省したかどうかは外見ではわからないものです。

詳しくは岡本茂樹著の「反省させると犯罪者になります」をご購読ください。

プリズン・ライターズ 募集

「かえるのうた」20号で提案しましたが、このたびホームページが完成したことで、YouTube またはホームページ等のインターネット上で、投稿の公開が具体化してきました。以下のように行いますので、再度告知します。

ほんにかえるプロジェクトには多くの受刑者からお手紙をいただいています。手紙の中ではご自身の生い立ちを書く方もいれば、今受けている理不尽な扱いについて書く人もいます。社会との接点が断たれた受刑者にとってほんにかえるプロジェクトは心情を吐露できる貴重な存在になっています。今後は会員のリアルな心情を社会一般の方達とも分かち合いたいと考えます。

ほんにかえるプロジェクトは映像制作のプロの協力を得まして、YouTube に投稿できる運びになりました。今後ホームページにもプリズン・ライターズのページを設けます。

投稿内容としては以下のように考えていますが、特に内容を限定していませんので、参考までに。

①過去の自分を捉え直す：なぜ犯罪に至ったか？意志とは何か？環境がそうさせたのか？

②今の自分を客観的にとらえる：社会に対しての敵意は残っているか？家族に対してどう思っているか？事件に対

していまはどう考えているか？

③出所後について：生きがいはあるか？仕事をどう選択するか？

④更生とは何か：居住、生活、就職などの順応、時間・金銭・健康をどう管理するか？

⑤社会からの孤立をどう防ぐか：友達、交際相手をどう作るか？

⑥自分を救うものは何か：セフティーネットとして行政、市民団体、宗教ないし信仰心、家族友人知人のあり方。

投稿原稿には「タイトル」を付けていただけると助かります。

受刑者からの手紙については本人の承認がなければ匿名とします。個人を特定するため、会員番号を掲載します。採用した手紙の原本を画像としてYouTube、ホームページにアップし、見やすいように活字テキストを加え、私からのコメントも付け加える予定です。

採用した原稿への報酬も想定しています。公開した原稿に対して、閲覧者が寄付できるようなシステムを構築中です。投稿に対する寄付があった場合は本人にお渡しします。閲覧者のコメントもお知らせします。

投稿内容に制限はありません。ごく日常的なものでも構いません。本の感想、詩、俳句等も受け付けます。

今回のレビューの感想、「怒羅権と私」の感想なども歓迎です。

発信したいことをどんどん発信していきましょう。会員であればどなたも投稿できます。

原稿は事務局の住所で、担当内山直樹宛にお送りください。



ホームページができました！

ほんにかえるプロジェクトは 2015 年に設立されてから、出所者の協力でホームページを一度作成したのですが、予算がないため、維持できませんでした。この度、京都在住の小百合さんのご協力により、ほんにかえるプロジェクトのホームページが新たに作られた。

<https://www.honnikaeru.com/>

「ほんにかえるプロジェクトとは」から始め、活動の詳細を写真入りで説明することもできました。また受刑者のご家族、友人からの入会資料請求の方法も掲載していますので、大変便利なものができました。小百合さんに感謝を申し上げます。

YouTube チャンネルも開設、現在は汪楠が、逮捕から更生支援を始め、これから語るインタビュー映像が 3 本公開されています。

また汪楠が書いた「我的童年 私の生い立ち」と「獄中書簡集」を各 500 円で販売してきました。手作りでしたが、

ネット印刷が大変安くなっていることから、こちらもちんと印刷製本したものを作り、販売開始の予定です。

「怒羅権と私」は 1650 円で市販されています。PJ でも送料 200 円込み 1850 円で販売しています。よかったら買ってください。ただし施設によっては閲覧ができない可能性もありますので、ご確認の上、ご購入ください。

個人的なことですが、コロナで失業し、住むところも失ったので、事務局のある江戸川区から隣の市川市に引っ越します。受刑中の皆様も大変ですが、私も大変、でも頑張るしかありません。ともにこの困難を乗り越え、日常生活を取り戻しましょう。

発行所

〒134-0003 東京都江戸川区

春江町 5-15-31

ほんにかえるプロジェクト事務局

電話 080-8811-5465